

南部科学工業園区（以下略して南科）には、台南園区及び路竹園区がある。台南園区は台南県新市、善化及び安定の三郷鎮間に位置し、面積1,038ヘクタール、路竹園区は高雄路竹、岡山及び永安の三郷鎮間にあり、面積570ヘクタールである。

設置の起り

1991年1月1日「国家建設六年計画」により「新設科学工業園区」の構想が確立し、1993年7月1日「経済振興方案」が行政院第2,388回院会を通過、「南部科学工業園区増設」が提出された。国科会南部科学工業園区籌設計画（計画範囲は現在の南科台南園区一期）は、1995年5月、行政院の審査決定を受け、正式に南台湾はハイテク産業発展に向けて展開を始めた。

2000年、経済景気が好転、台南園区一期は工場用地の80%以上を貸し出し、その後も賃貸のニーズが絶え間なく伸びている。半導体及びTFT液晶ディスプレイ（TFT-LCD）産業の工場用地として大規模な工場建設地を提供、景気の影響で、2000年5月、行政院は台糖社が路竹に開発したインテリジェント工業園区を南科路竹園区用地とすることに同意し、2001年4月6日審査決定した。

また、高鉄が台南園区を通るため、高鉄から1キロメートル以内の振動に敏感な企業が影響を受けないよう、張俊雄前行政院院長は2001年5月17日南科を視察した際、台南園区二期開発を加速するよう指示した。拡張計画は2001年9月19日、行政院で審査決定された。

